

子育て環境の整備・充実を 支援事業計画に基づき推進



おくもと たつや 議員
奥本 哲也 議員

問 子育て支援における課題は無いのか。
そして評価はどのような
に行っているか。

答 野村健康福祉課長

令和6年度までの計画期間とする第2期子ども子育て支援事業計画に基づき推進している。子育て支援の課題として、不登校対策、仕事と育児の両立、児童虐待防止など課題がある。子ども子育て支援会議、障がい児福祉計画の諮問機関である自立支援協議会も毎年度開催しており、両会議において集団が苦手な子どもの居場所づくりが含まれており、障がいや発達特性により家庭以外で安心して過ごせる場所づくりも課題と認識している。

問 子ども達は十人十色、背景も様々であり居場所
は多いほどいいと思っ
ている。現在の子どもの居
場所は充実しているか。

答 野村健康福祉課長

子どもの居場所として、就学児には放課後子ども教室、児童館があり、学校に行きづらい子どもには、くじらルーム、かつおルーム、サポートルーム。障がい児には児童発達支援と放課後のデイサービスがある。しかし児童発達支援と放課後のデイサービスは町内には無く四十市の事業所を利用している。また、あつたかふれあいセンターは子どもから大人まで気軽に利用できる場となっていて町内に6カ所ある。町内様々な資源はあるが、障がい児や発達特性により集団が苦手な子どもたちが安心して過ごせる場所は不足している部分もある。

問 子どもの居場所ですこ
れから、児童館の役割は
ますます重要になってく
ると思う。保護者、地域
に信頼される児童館をこ
れからどのように運営し
ていくのか。また人材確
保も重要になってくると
思うが、どのように取り
組んで行くのか。

答 河村地域住民課長

子育て中の保護者が、安心して育てられる場所や保護者同士の交流、悩み事などの相談し合える場所が必要であり、その場所が児童館と捉えている。保護者のニーズにも様々な事業を通して繋げていきたい。

答 野村健康福祉課長

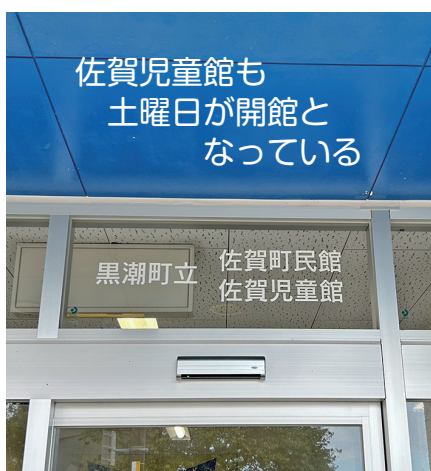
人材確保については、実施している各事業でどのような人材がどれだけ必要か、またどのような人を対象に事業があるのか調査が必要になる。各事業者の方たちの声を聞き、検討していきたい。

問 子育て支援に対して、
ニーズを十分把握できる
体制は整っているか。

答 野村健康福祉課長

子育てや生活に何らかの課題を抱える要支援家庭を中心に、保育所、学校、教育委員会、民生児童委

員、NPOより情報が健康福祉課に集約されるように体制が出来ている。年に一度、子育てに関する関係機関で子ども子育て支援会議を開催し、子育て世帯のニーズや課題などの把握に努めている。



大方、佐賀の両児童館がこれからの
子どもの居場所として重要！

